

日中武侠映画と剣戟映画の対照研究

大阪市立大学文学研究科言語文化学専攻 車明剣

研究背景・目的

- 中国における武侠映画は日本の剣戟映画（チャンバラ映画）と似たタイプのアクション映画である。両者は時代考証に気をつけ、「歴史の想像」と「歴史の再現」の手法を通じて、日中の真実の歴史を再現したり、真実の歴史を基に架空の歴史を創作することにより、ローカル映画として日中の歴史と文化のあり方を表現する重要な形式となっている。武侠映画は伝統舞台芸術の様式化、殺陣の魅力と工夫、主役の任侠精神など剣戟映画を通じるものが多いである。
- 1960年代から、日中両国の映画界はより積極的な交渉を始めた。日本人の監督とカメラマンなど映画人材が香港で映画を撮り、かなり多くの合作映画が制作された。それに映画物語の題材、シーンの参考、動作設計（アクションデザイン）などの面で深刻の交流と影響が存在している。21世紀に入り、武侠映画と剣戟映画の様式は次第に変化しつつある。映像技術の更新による多様なカメラワーク、CGとワイヤーワークを組み合わせ、映画の主役である侠客と武士は「官人化」と「庶民化」など革新傾向があると考えている。
- 武侠映画と剣戟映画の映画交渉史、二十一世紀の映画風格特徴と創作傾向を着目し、映画文学と映像画面分析と身体動作運用を重点的に分析し、日中の映画史、歴史、文化、文学、宗教などの視点から、両者の差異性と共通性を探る。

現時点の研究内容

- 中国「侠文化」の整理・分析と21世紀以後侠客武士形象の変化・分類
江湖と朝廷の間で揺れ動く侠客の生存形式 — 「定住型」「合作型」「遊離型」
- 中国における剣戟映画の受容
武侠映画への影響と香港新武侠映画の誕生 — 「リメイク作品（黒沢明監督作品）」「シーンと役の参考（座頭市の影響）」「動作設計の風格形成（殺陣のリアリズム）」
- 21世紀以後武侠映画と剣戟映画の発展傾向と共通性
「暴力描写の弱体化と主役の不殺傾向」「動作設計の交流と影響」「侠客と武士の身分変化の傾向」
- その他 徐皓峰武侠映画分析、藤沢周平時代小説の翻案映画作品研究など

本プログラム支援期間の研究成果

- 以器載道—武器の視点から「狄仁傑」シリーズと「るろうに剣心」シリーズ映画の特徴と内容についての比較分析
- 日本剣戟映画の中国武侠映画への影響—映画『七人の侍』リメイク作品を中心に—